

## 特集

### 世界のオーケストラと指揮者の現在

イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、アメリカで活躍の若手指揮者

#### ヘタリア

M・イカルデイ、A・ボナート  
B・ヴェネツィ、V・ペレツジ  
G・サグリパンティ

「同年代にもクラシック音楽の魔法を知ってもらいたいと言う若干15歳のイカルデイ  
「僕は神童などではない。…」と語る26歳のボナート

#### ● 川西麻理

イタリアの若手指揮者といえば、今もなお、毎年御紹介してきた、日本では「三羽ガラス」とも称されるダニエーレ・ルステイオーニ、ミケーレ・マリオッティ、アンドレア・バッティストーニの3人に変わりはない。ただ彼らもそれぞれ、38歳、42歳、34歳とキャリアを順調に重ね、もはや将来の確固たる基盤を築いたと言つてよいだろう。従つて、注目の若手イタリア人指揮者として、今年は何れを除いた5人をご紹介したい。

それでは年齢が若い順に見ていきたい。

1人目はモルガン・イカルデイ。この長い黒髪  
の美少年はトリノ生まれの何と若干15歳。指揮と  
並行してピアノリストとしても活動している。指揮

者としては世界で最も若い。父親の仕事のために移住したアメリカ・シアトルで5歳からピアノを始め、2014年にイタリアに帰国した。2021年6月に、既に1枚目のCD（2枚組）『Mozart across boundaries』がMusica Vivaから発売された。この中で、彼はピアノリストとしても、30人ほどの楽団員をまとめる指揮者としても参加している。2021年9月からは地元トリノを離れ、ミラノ市立音楽院「クラウディオ・アッバド」で勉強している。趣味はゲームとネット（自身のフェイスブックのファンは20万人）という今の若者であるが、やはり最も興味があるのはクラシック音楽で、同年代にもクラシック音楽の魔

法を知ってもらいたいと言う。当然夢は一流のオーケストラを指揮すること。まだまだ勉強の途中ではあるが、今後、目が離せない才能である。

2人目はアレックスandro・ボナート。ヴェローナ生まれの26歳。2018年のニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで、参加者566人の中で最年少（23歳）、かつ唯一のイタリア人として第3位を受賞。11歳からヴァイオリン、ヴィオラ、その後さらに作曲、対位法、指揮を学び、2013年地元音楽院のオーケストラとの共演により若干18歳で指揮者デビュー。2016年にはオマーンのマスカット王立歌劇場で「魔笛」を振つた。そして前述のコンクール入賞後は、スカラ座やアレナ・デイ・ヴェローナなどを始めとする一流の歌劇場、またベッザロ・ロッシーニ・フェスティバルなどで指揮台上がり、活躍の場を広げている。2021年1月、マルキジャーナ・フィルハーモニー管弦楽団（FORM）の首席指揮者に就任した。イタリアで本格的に活動する指揮者としては最も若い彼だが、「僕は神童などではない。勉強熱心で、常に新しいことを見つけようとする、ただの若者に過ぎない。才能だけでは十分ではない。才能は絶え間ない研究と一緒に初めて初めて意味を持つ」と語る謙虚さを持つている。これから注目したい逸材である。

3人目はベアトリーチェ・ヴェネツィ。華やかなこの女性はルッカ生まれの31歳。2010年にピアノでディプロマ取得後、指揮と作曲を勉強

し、2014年に指揮者としてデビューした。そして2018年ルッカ・サマー・フェスティバルにおいて、公の場で初めて成功を収め注目を集めた。これまでに日本、カナダなど世界各国で指揮。とりわけ、第71回サンレモ音楽祭のゲストとして舞台上上がったことがきっかけとなり、彼女の存在が広く一般に知られるようになった。ヴェネツィの興味はクラシックから電子音楽まで幅広く、それらを融合させる試みも意欲的に行っている。2017年にはイタリアの全国紙コッリエレ・デッラ・セーラの「今年最もクリエイティブだった女性50人」に、翌年には雑誌フォーブ



モルガン・イカルディ (©Paolo Properzi)

ス・イタリアの「30歳未満の将来のリーダー100人」に選ばれた。

4人目はヴァレンティナ・ペレツジ。彼女も前者同様女性の指揮者で、フィレンツェ生まれの39歳。2016年にサンパウロ芸術批評家協会の、「今年の指揮者」に与えられるAPCA Awardを受賞、2018年にはBBC Music Magazine誌上で「今年のライジングスター」と絶賛された。また2019年にはロンドンの王立音楽アカデミーのアソシエイトに任命された実力者である。現在はアメリカのリッチモンド・シンフォニー・オーケストラとブラジルのサン・ペドロ劇場の首



ヴァレンティナ・ペレツジ  
(©Bo Lutoslawski)



アレックスandro・ボナート  
(©Francesca Tilio)

席指揮者を務める。彼女の履歴を見ると、ピアノも指揮も世界トップクラスの人物の元で勉強し、それぞれの場所で常に輝かしい結果を収めてきた。さらに文学専攻で大学も卒業しており、1950年代の音楽と詩の関係についての卒業論文で賞までもらっている。優等生の彼女の将来が楽しみである。

5人目はジャコモ・サグリパンティ。アブルッツオ生まれの39歳。7歳でピアノを始める。ムーティを見て指揮者を目指すようになり、作曲と指揮の勉強も始めた。2016年にパリのオペラ・バステイユで「ウエルテル」を振って大成功を収め、同年、若い指揮者の部門にて、インターナショナル・オペラ・アワードを受賞。パリ・オペラ座、ボルシヨイ歌劇場をはじめとする世界の一流歌劇場に次々と呼ばれ、聴衆からも批評家からも高い評価を得ている。2020年2月には、二期会の「椿姫」で日本デビューする予定。この公演の前はバイエルン州立歌劇場で「トゥーランドット」、後にはモンテカルロでベッリーニの「海賊」、バステイユ・オペラで「アドリアーナ・ルクヴルール」、ロンドン・ロイヤルオペラハウスで「ランメルモールのルチア」、ペーザロのロッシーニ・フェスティヴァルで「モイーズとファラオン」と彼の予定はぎっしり先まで詰まっている。もはやオペラのスペシャリストとしての未来は保証されている。益々の活躍を期待したい。